



44 (一九六五)6.18	7.5	桜井重雄死去。	【註⑦】 れる。【註⑦】 榮二先生、理由もなく人格は無視され、何の相談もなく突然、一方的に宣 伝使、教学委員解任される。	【註⑦】 榮二先生は当時の メモに記す	40 日韓基本条約
41 (一九六〇)秋	8.7	瑞生大祭―森本部長、安保賛成を表明。後植村氏も賛成。愈々教団は憲 法無視ファッショ化の方向へ。	【註⑧】 徳重氏著「松のよ はひ」195、196頁。 氏の魂の現れた文 章。	41 中国文化大革 命	
15 (一九七)節分	9.19	三代教主「教祖と教主は違う。教主は教祖の決めた事を変えることはで きない」(『愛善世界』平成3年10月号)―二代教主の意志は明確。			
48 (一九七)4.17	9.15	九州の小森屯特派、島原分苑で「本部からゲタ(榮二先生)を追放… 四代から男(京太郎)の教主に…」	【註⑨】 この本の社会的価 値、評価は次第に 認められて来て多 くの方々の好意的 書評があった。教 団全体に大本の第 二次の事件に関し て他に取り纏まっ たパンフや論文は	47 沖繩返還 日中国交回復	50 持介石没、 サイゴン陥落
50 (一九七五)6.9		右派で自称信者顔した倉田地久は「直美様ご夫妻は悪徳所業…教主にな る資格なし」のパンフを亀岡本部や農園を中心にばらまき、教団を攪乱。 又殊に三丹の信徒間を攪乱し四代教主、榮二先生に悉く妨害。宇佐美総 長の時(昭和59年)、彼は教団参与となる。この歴史的眞実を尊重した ものだ。	【註⑨】 この本の社会的価 値、評価は次第に 認められて来て多 くの方々の好意的 書評があった。教 団全体に大本の第 二次の事件に関し て他に取り纏まっ たパンフや論文は		

38 (一九六)12.22		二代様御昇天後、綾部の土地処理に関する会議が春秋荘で開かれる。	【註⑥】 伊佐男氏の当時の 言動に注意。	徳重高嶺氏日記昭 和41年5月14日。	
41 (一九六〇)秋		京太郎氏「四代直美は認めるが、教主補に榮二氏がなることは反対だ。 血筋である私になってよいと思う」(当時の速記録)	【註⑤】 御守護。		
		三代教主「教主の後を継ぐのは直美、これは動かすことの出来ない事。 直美が教主になれば当然教主補に榮二がなるべきもの」(当時の速記録。 尚教主は掬水荘の帰属に付いて教団と切り離して直美名義にしとけと言 明されたが、直美様即答を避け、考慮、あとで答弁するとの記録)			
		「榮二は共産主義者だ。三千万円で榮二氏を離縁させ、教団から追い出 す」謀議。(出口虎雄氏宅で)―出口虎雄氏、桜井本部長、斎藤審査局長。 当然知れ渡り話題となる。(―その話の結果は伊佐男氏に報告されてい る―)方また金策上面に大阪の野間田議長に依頼―当時総代会―そして 野間田氏は11月10日午後来綾し、直美様と榮二先生に詳細な報告がなさ	と反論。大本の御 教からは三代教主 には木の花姫の分 霊(木の花の咲耶 姫(33巻)の霊の 御守護。		
					43 ベトナム北爆 停止



58	一九二〇年 五月二十六日	三諸聖子氏、出口家の養女となる 大石榮死去。 三代教主名により直美様榮二先生死 神死から立ち退き要求。(独断) 方的に、約束を守らずに)	何に防止するか、残された唯の道は神定の道統を守るべく、これまでの歴史の真実を明らかにすべきと提訴された)	58 大韓航空機事件、三宅島噴火
59	一九四〇年	開祖大祭みろく殿に於ける。千名の信徒を前にしての挨拶に於いて宇佐美総長は聖師様の御神格を無視し、「…今日では聖師様の御偉業というのは幻として残っているだけで御座居ます云々」と、何と非礼千万なる挨拶を平然とした。(記録) 聖師様を平気で誹謗する程の呆れた野心的人物。一休誰が大本に連れて来た。一死誌は一見穏やかな印象で発表。実録は御神格無視、罵倒。	【註3】 「更生会報」(教団本部が資料提供)は「三代様が直美様に記念として贈られた歌は十年前の歌で、直美様に贈られたもの	59 中曾根氏、戦後首相として初の靖国参拝
61	一九六〇年	三代教主は直美様の「しずはた」出版を祝い大阪の病院から金一封とお歌一首を贈られる。(広瀬麻子氏にことづけられて)		61 チェルノブイリ原発事故、伊豆三原山噴火
62	一九七〇年 五月四日	宇佐美龍堂死去。	○神律は厳しい	

9	一九一三年	徒籍剝奪まで企てたが止められた 一方的御用総代会で本人の弁明は全くなされず一方的に多数決で祭教院廃止される。(全員一致ではない) (執行部は最悪の不利になる事を考慮してか、榮二先生の復職できないよう早速諸規定・規約等の削除解消を配慮する。) 一当時の体制べったりの審査院の働き…	思います。榮二先生の問題は、先のことあまり言うて、その場になつて、…両方あるんだ。…(裁判前に既に直美様追放・道統断絶の明白な大陰謀。録音記録) 執行部はこの点全然触れられない。歴史的眞実を大切にしよう。裁判したから悪いのだという執行部の弁明はとんでもないぞだ。話し合う事も拒否し、一方的独断で、教団破壊の拳を如	
9	一九二八年	パンフ「出口榮二先生の役職解任について」を公表。(死誌付録で) ↓(註・出口榮二先生と懇意だった綾部市長羽室氏より直接パンフの件にて榮二先生に話されたという。本人に全く相談無く独断的出版。当然地元元亀岡の市役所又他の諸公的機関に一方的インチキパンフを送付—ばら撒く。)		
12	一九三八年	執行部との話し合いも出来ず、道統を守るべく種々と当時の先輩や役員の方々と相談。熟慮の上、歴史的眞実を残すべく、榮二先生は終に京都地裁に提訴。		
57	一九六〇年 五月二十六日	宇佐美総長は三代教主を病院から無理にホテルへ。直美様の教嗣を取り消す。「筆先の重大な神示に違反」「末代の規則を制定場所(制定場)は綾部の大本と未代決まりたのであるぞよ。」(大正六年旧九月三十日) 一道統を乗っ取り教団破壊の恐るべき反大本の罪悪行為か!! (三諸聖子→教嗣)。 「大本の全信徒へ」、更に六月五日「清泉の小川を」の教主名パンフ。眞実を離れて一方的に勝手な独断的な内容のものを発表。社会的にも恥ずかしい事だ。		

平成	2(九九)923	1012	6(九九)829	13(〇〇)122	15(〇〇)617	18(〇〇)617
平成	1・ベルリンの壁崩壊、冷戦終結(マルタ島12月)	3・ソ連邦解体、PKO協力法	7・阪神大震災	11・周辺事態法	13・米同時多発テロ	14・日朝平壤宣言 15・スペースシャトルコロンビア号爆発 米イラク攻撃、有事三法案
ではない」とシャ	1・チャーとうそぶく、信徒として否人間として、よくもこんなウソの悪業が出来たものだ。(「しずはた」安本名誉毀損事件) ↓明白になり4・28裁判(調停)取下げ。	弥勒世界への佳き「型」を出そう。歴史的眞実を何故あえて大切にしな	いのか?	大本信徒として静かに反省し、解決への努力こそ大切だ。	大本の信徒なら眞実を尊重し、率直に話し合い解決へ前向きに努力しよう。	島本本部長より榮二先生あてに、3月15日までに鶴山工房土小屋の所有物を撤去せよとの配達証明郵便来る↓種々のやりとりの後、未解決のまま、うやむやに移動。
三代様ご昇天。即刻に本宮山にて神定四代直美様教主就任の厳肅なる占式の祭典。	榮二先生は神定四代直美様が御道統継承者として御立ちになり、従って当然、裁判取り下げ申請(10・15取下げ確定)	森清秀死去。	広瀬紅氏、出口家の養女となり、同日教嗣。	出口聖子氏昇天。この間不明朗複雑怪奇な諸問題。(出口紅氏、教主就任)	榮二先生から教団への話し合いの申入れに「(広瀬総長、島本本部長に)然し何故か、すべて拒否される。歴史的眞実を大切に信仰的良心に基づき問題解決のため話し合う事は宗教人として心掛くべき第一の基本的条件、又態度だ。	島本本部長より榮二先生あてに、3月15日までに鶴山工房土小屋の所有物を撤去せよとの配達証明郵便来る↓種々のやりとりの後、未解決のまま、うやむやに移動。